

「もんじゅ」破たん、凍らない「凍土壁」

今こそ

原発ゼロ決断し 再稼働の中止を 共産党・市田副委員長が質問



日本共産党の市田忠義副委員長は9月29日の参院本会議の代表質問で、戦争法や経済の問題とともに、安倍政権の原発政策を告発し、全国で起きている運動と手をたずさえて対決していく決意を表明しました。

市田氏は安倍政権の原発推進政策が深刻な矛盾に突き当たっているとして3つの点を指摘しました。

- ①福島原発事故の汚染水対策の「切り札」として打ち出された凍土壁が凍らず、対策の「根本的な見直しが必要」となっている
- ②九州電力・川内原発への不安の広がりにより川内原発の一時休止を公約に掲げた知事が誕生し、避難計画が不十分と判断した
- ③高速増殖炉「もんじゅ」の破たんは政府の核燃サイクルと使用済み核燃料処理方針の破たんを示すもの

市田氏はそのうえで、「いまこそ国民の声にこたえて原発ゼロを決断し、原発再稼働を中止することを強く求める」と述べました。

「汚染水はコントロール」 ——首相答弁に議場どよめき

市田氏の質問に対し、安倍首相は「汚染水の影響は福島第1原発の港湾内に完全にブロックされ、状況はコントロールされている」と答弁。あまりの答弁に、議場はどよめきに包まれました。



▶放射能汚染水タンクが並ぶ福島第1原発
今年2月

力をあわせ原発ゼロの日本を!!

福島原発事故から5年半たった今なお、9万人近くの方が避難生活を強いられています。汚染水の問題も深刻です。その事実にもともに向き合わない安倍首相には、政治をまかせておくわけにはゆきません。力をあわせ、ご一緒に「原発ゼロ」の日本をつくしましょう。



参議院議員(東京選挙区選出)
弁護士・31歳

やまぞえ・たく

山 添 拓



ご意見・ご要望は 03-3370-0311、FAX 03-3370-0471
2016年10月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

日本共産党